

# 目 次

はじめに

I. 序 論	1
II. 外山正一著『英語教授法 附正則文部省英語読本』	9
緒言	10
第1章 外国読本及びこれに類似の読本	10
第2章 文部省正則英語読本	15
第3章 正則英語読本使用法	16
第4章 外国語の課業における一大弊風	18
第5章 翻訳の仕方	19
第6章 教師への注意	21
III. 岡倉由三郎著『英語教育』	29
第1章 緒言	29
第2章 英語は独修し得べきか	30
第3章 英語教育を始める時期	30
第4章 教授法の過重視を難ず	32
第5章 英語教授の要旨	34
第6章 予備的訓練	39
第7章 英語各分科の連絡及び関係	41
第8章 文字の書き方及びその練習	45
第9章 発音及び読み方	48
第10章 解釈について	54
第11章 会話及び作文について	71
第12章 文法について	76

第13章	英語の各分科とその内的関係	79
第14章	教師に対する要求	81
第15章	参考書のくさぐさ	84
IV.	オットー・イエスペルセン著『外国語教授法』	87
序		87
第1章	緒論	88
第2章	文例	91
第3章	読本の選択	96
第4章	読本の使用法	104
第5章	種々の教授法	110
第6章	翻訳, 音読, 書き取り	121
第7章	語法教授上の要点 (その一: 数字の指導, 文の変換)	130
第8章	語法教授上の要点 (その二: 機械的暗記の弊害, 活用形や 形式の練習法, 和文英訳)	137
第9章	語法教授上の要点 (その三: 文法規則発見の手順, 文法の 扱い方, 同意語, 語彙集)	146
第10章	発音の取り扱い方	153
第11章	余論	166
V.	ヘンリー・スウィート著『言語の実際的研究』	173
序		174
第1章	言語の研究 実際的研究と理論的研究／一般原則の必要性／よい学習法と悪い 学習法	175
第2章	音声学 音声学は新機軸ではない (模倣の誤り, 細かい区別の誤り)／研究 方法: 器官的および聴覚的 (音の孤立化, 音構成の分析)／母国語 の音と一般音との関係	177
第3章	音声表記法 普通つづり法と表音式つづり法との関係	180
第4章	外国の字母 (アルファベット) 外国字母の字訳	182
第5章	様々な発音	184

人為的発音／口語性 (colloquialism) の度合い／発音の標準	
第6章 音声学の一般的研究	187
音声学の利点	
第7章 話し言葉から始めよ	189
話し言葉は書き言葉の源／実際の考察	
第8章 言語の困難	191
外的困難／母語との関係／内的困難／音声上の困難／各言語の一般的困難／真の困難は語彙にある／すべての言語は同等にむずかしい	
第9章 教授法の一般原則	199
言語は部分的にしか合理的ではない／言語における不合理な結合：我々は規則では話せない／自然教授法 (ナチュラル・メソッド)／海外居住／先天的素質／国民的素質／すべての人に通用する教授法	
第10章 教授法の特別原則	208
規則：機械的孤立化 (mechanical isolation)／分析と総合／語形変化表／単語表を暗記すること／分離した文；文脈／連合 (Association)／記憶；反復／テキスト，文法，語彙の間の関係／漸進的教授法の諸段階：不規則変化	
第11章 文法	221
語形論と統語論 (Accidence and Syntax)／形式のおよび論理的統語論／語形論と統語論を一緒に教えること／文法的分析の段階／文法は無意識的に学ばれる／用例	
第12章 辞典；語彙の研究	227
範囲 (完全さ，簡潔さ，一目で見渡せること (Surveyability)，意味，用例，文法的情報およびその他の情報)／論理的辞典／言語の語彙の研究 (辞典の使用，意味の形式的研究，意味の論理的研究)	
第13章 テキスト；読本	233
テキストの分類／連続性／長さ／明瞭な文脈／限られた語彙／最も必要な要素を最初に／主題の親近生／ことばの簡潔さ／多様性／むずかしさの段階／興味／文学的テキスト／形式の優先；文法的テキスト	
第14章 異なる言語間関係：翻訳 (= 訳読) (translation)	243
本国語の知識を得ることから始めよ／交叉連合／翻訳せずに外国語で考えること／外国語からの翻訳 (絵画式教授法，外国語による説明，翻訳は知識をより正確にする，翻訳の三つの段階)，自由作文：質疑応答	

第 15 章 会話 .....	251
第 16 章 文学, 文学的作文 .....	253
作文	
第 17 章 一般的事項 (原本第 19 章) .....	254
時間と努力／成果: 知識の段階と程度 (完全な知識, 熟達した知識, 基礎知識)／摘要とノートブック／テキストの主題内容／子供を 教えること／成人のための教授法; 自学 (母語話者の教師がいる場 合, 明確な知識から始めよ; 翻訳文から, 文法書)	
 VI. 独自の教授法をもつこと: あとがきに代えて .....	265
 参照文献および新聞記事 .....	271
 索 引 .....	275